

ヤイトハタ種苗生産の初期餌料の検討

【要約】ヤイトハタの種苗生産の初期餌料にはタイ産ワムシが適正であるが、S型ワムシでもその給餌密度を高く保つことで飼育初期の生残率を高めることが可能である。

沖縄県水産試験場 八重山支場				連絡先	09808-8-2255		
部会名	水産	専門	種苗生産	対象	ヤイトハタ	分類	研究

【背景・ねらい】

ヤイトハタの種苗生産において摂餌開始時に摂餌可能なワムシサイズについては110~160 μ mであることが明らかになり、タイ産ワムシがその適正サイズであることがわかった。しかし、タイ産ワムシの培養不調時や、一事業所で多数株のワムシを培養する業務の煩雑さを考慮すると、S型ワムシのみで種苗量産できれば業務の簡素化となる。そこでS型ワムシを高餌密度に給餌することにより飼育初期の生残を高めることができないかを検討した。

【成果の内容・特徴】

- ①飼育には50kl水槽3面を用い、それぞれふ化翌日から摂餌開始4日後までタイ産ワムシ10個/ml、S型ワムシ10個/ml、S型ワムシ50個/mlにワムシ密度を保ち仔魚の生残と成長を測定した。飼育水のワムシ密度変化は図1に160 μ m以下のワムシ密度は図2に示した。
- ②その結果、初期餌料の影響と思われる減耗が現れ始めた日令11の生残率はタイ産ワムシ区、S型ワムシ50個区が51~72%であったのに対し、S型ワムシ10個区では21%と低かった(図3)。
- ③仔魚のワムシ摂餌数は表1に示した。タイ産ワムシ区及びS型ワムシ50個区では順調に増加したが、S型ワムシ10個区では増加が認められず、これが減耗の主な原因と考えられた。また、仔魚の成長はワムシの摂餌数に対応する様相がみられた(図3)。
- ④S型ワムシ50個区で日令5までに大きな減耗がみられたのでDO値を測定したところ日令6で2.6mg/l(他は4.2、4.8mg/l)まで低下していた。このことからこの減耗の原因はワムシを高密度に維持したことで著しい環境の悪化があったためと考えられた。

【成果の活用面・留意点】

- ①ワムシを高密度に維持すると飼育水の環境が著しく悪化する恐れがあるので飼育環境に十分留意する必要がある。

[具体的データ]

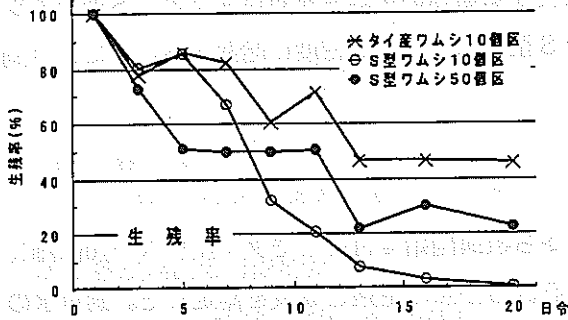
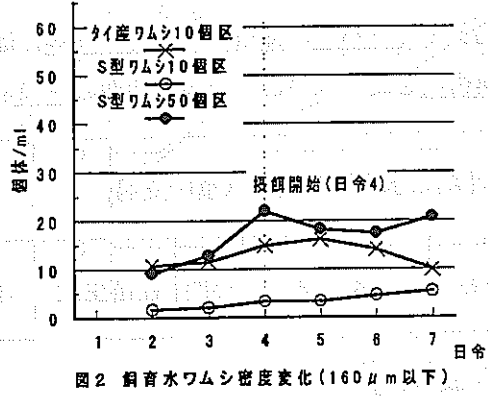
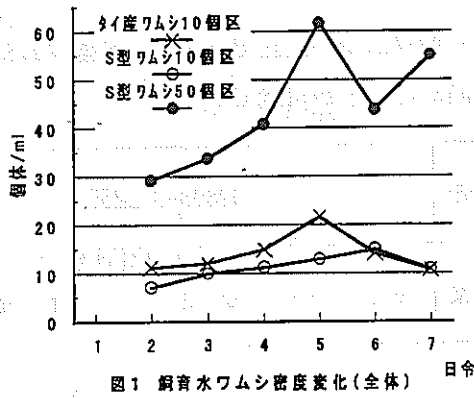


表1 ヤイトハタ仔魚の摂餌開始日と

摂餌開始2日後のワムシ摂餌数

	摂餌開始日	摂餌開始2日後
タイ産ワムシ10個区	10.2	30.6
S型ワムシ10個区	2.2	3.1
S型ワムシ50個区	5.0	20.4

8~15個体平均

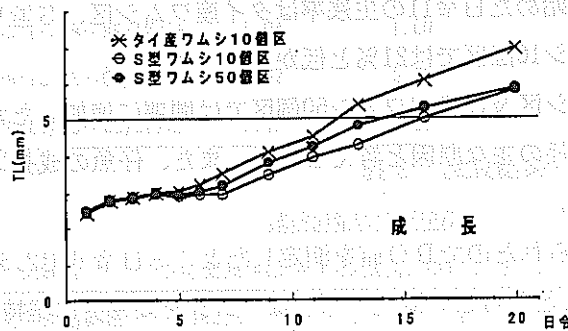


図3 仔魚の生残率と成長

[その他]

研究課題名：ハタ類種苗量産養殖技術開発試験

予算区分：県単独事業

研究期間：平成12年度(平成12年度)

研究担当者：大嶋洋行・仲盛淳・勝俣亜生・仲本光男

発表論文等：平成12年度沖縄県水産試験場事業報告書(掲載予定)